



農業後継者団体 阿見サンクラブ

「阿見サンクラブ」は、次世代の農業を支える若手の農業者の集まりです。その歴史は長く、発足は昭和44年3月。令和3年11月現在、26名の会員の方が活動しています。

会員の知識・能力を高める研修等のほかに、祭り・イベントへの出店や、町内の保育所等の園児を対象としたサツマイモ掘り体験なども実施しています。

今回はこの「阿見サンクラブ」の会員の中から、3名の生産者にお話を伺いました。

まちの魅力再発見

あみっぺ

が行く



こんにちは、あみっぺです！
今回は町内で活躍する若手農業者を取材しました！



阿見町公式
You Tube
チャンネル

阿見サンクラブによる
「園児のサツマイモ掘り
体験」は動画でもご覧
になります！



元々務めていた会社からの離職を機に、実家の農業を継ぐことを決意した糸賀さん。

現在はキュウリ、ブロッコリー、ホウレンソウを栽培し、農協へ出荷するほか、大型ショッピングセンターの産直コーナーなどにも出荷しています。

農業を始めてみて率直な感想は「見ているのと実際に作るのでは全然違った。年によって気候条件が変わるため、知識・経験に頼ることが多いと感じたそうです。

今ある手持ちのハウスでできる限り収量を上げる工夫をしつつ、なるべく薬を使わず、品質向上に努めたいと語ってくれました。

糸賀 稔 さん



石塚 正之 さん



一家で農業を営む石塚さんは、水稲、ダイコン、ネギ、ソバを栽培し、主に市場や業者に直接出荷しています。

元々家が農家だったことで、子供の頃から農業には接していたものの、「休みがないし、きつそう」と初めはあまり良いイメージを持っていなかったと言います。

別の業界で働いていた20代後半、何か新しい仕事を始めてみたいと考えていた時に、祖父の体調不良がきっかけで実家の農業を手伝ったことから、農業の道へ。



実際に始めてみると、「大変なこともあるけれど、それ以上に作物を上手に作れた時の喜びが大きかった」と農業の魅力に気づき、やりがいを感じたと言います。



「今後は新しい技術を導入すること、高品質の農産物をつくるとともに、地域の農業を守っていききたい」と未来への熱い思いを聞かせてくれました。



舩谷 英人 さん



独立して2年目の舩谷さんは、転職にあたり、将来の伸びしろ・可能性のある職種をいろいろと考えた末に、農業という選択をしました。

現在はレンコンを栽培し、農協へ出荷しています。

親や親戚には農業をしている人はいなかったため、手探りで調べていた中、役場の就農支援窓口に相談に行ったのがスタートだったと当時を振り返ります。

阿見レンコン部会を通じ、1年間の研修を経て独立。

農業を始めると、自然が相手なので、暑さ、寒さとの戦いに苦労しました。一方、農業用機械の扱いについては、転職前に身に付けていた機械整備の知識が役に立っていると言います。

「まだ農業を始めたばかりなので、当面はレンコン一筋で、大きくてきれいなレンコンを作ることが目標です」と今後の展望を教えてくださいました。



皆さん、貴重なお話ありがとうございました！ これからも阿見町の農業を盛り上げていってください！

次は「3月号お知らせ版」で会おうね！

